研究の京（みやこ）から成形加工の未来創造

大 嶋 正 裕*

第12回秋季大会“成形加工シンポジウム'04（京都）”は、平成16年11月23日（祭日）、24日（水）の2日間にわたって、京都大学の新しい桂キャンパス（京都市西京区京都大学桂）で開催されました。新キャンパスは、旧の吉田のキャンパスに比べ交通の便が悪いこと、前回のシンポジウム（金沢）でのノーベル賞受賞者と人間国宝の特別講演の後を受けて、本シンポジウムの特別講演を誰にお願いするかという人選の難しさなどさまざまな困難が予想され、多くの参加者を望まず最高で350名程度を予定して計画に入りました。しかし、蓋を開けてみますと、うれしいことに学会誌の広告にご協賛いただいた会社は46社にのぼり、講演件数は220件、参加人数は624名という、過去のシンポジウムの最高記録（金沢大会：講演件数183件、参加者469名）をすべての点で大きく上回る結果となりました。天候も味方し、錦秋のすばらしい晴れた空の下に適度な運動とともに知的な活動を2日間営むことができたのではないのでしょうか。（もし、天候が悪く足元が悪い中で、丘陵地をなんども上り下りしていただく羽目になっていたとしたら、健康的な学会などというこのような冗談は通じるはずもなく、考えるだけでも恐ろしい気がいたしております。参加者の皆様の日ごろの行いの良さに深く感謝する次第です。）

懸案の特別講演は、京都の色、関西の色を出すことを柱に人選を実行委員のみなさまで検討していただき、京都発のユニークな企業のひとつであるオムロンの市原達朗副社長様に、「オムロンにおける技術経営（日ごろ、気になること）」と題して1日目に講演いただくことができました。また、文化講演としては、ラグビー界はもちろんのこと一般の方々にもスクールウォーズで有名な伏見工業ラグビー部総監督（現京都市スポーツ政策顧問）の山口良治様に「熱き感動を求めて」と題したご講演を2日目にしていただきました。お二人のお話は、技術・ビジネス分野とスポーツ分野という異なる分野のお話でしたが、人間の無限の可能性を信じ、日本人愛に満ちた熱いメッセージが聴衆の皆様に伝わったのではないかと思います。

特別セッションとしては、Ⅰ．コーティング・接着の構造形成、Ⅱ．マイクロ・ナノスケールの成形加工とその構造・物性、Ⅲ．超臨界流体利用技術、Ⅳ．リサイクル・シー

ケンシャルユース、Ⅴ．関西セッションの5つのセッションを企画いたしました。特に、Ⅴ．の関西セッションは、従来のカタログ機器展示とは異った新しい試みであり、関西特有のユニークな技術をもつ企業の方々に口頭発表つきの技術展示をしていただくという「美・技・匠 関西成形加工」と銘打ったセッションとして開くことができました。このセッションの存在が、今回のシンポジウムが大成功した大きな要因のひとつであると感じております。

また、関西セッションと並ぶ新たな試みとして、京都大学で開催ということもあって、本学の高分子科学の5名の先生方をお願いしてリレー形式で講義を1日していただく、「成形加工のサイエンス」というセッションも企画いたしました。

さらに、京都市と科学技術振興機構とが共同運営されている研究成果活用プラザ京都を京都市のご後援もあり利用させていただくことができ、本学建築学科高松伸教授がデザインした白いガラス張りの吹き抜けが美しい建物で、従来から行われてきたポスターセッションも開催することができました。このポスターセッションでは、38件のポスター発表のなかから3件、35歳以下の若人の発表された優秀なものを選び、ポスター賞として表彰させていただきました。

いずれのセッションも会場が聴衆であふれるほどに大盛況となり、ご参加いただいた皆様には、部屋の狭さゆえの御不自由をお掛けすることになりましたが、企画した実行委員としては大満足の内容のものととなりました。各セッションをオーガナイズしていただいた方々に、また、各セッションにご参加いただいた方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さてここから、報告事項から少し離れて、私の本シンポジウムの所感を述べさせていただきたいと思います。桂キャンパスは昨年7月に開校いたしました。開校する半年も以前に本シンポジウムの実行委員長を仰せつかり、その依頼を「はい」と簡単に受けてしまいました。昨年の金沢でのシンポジウムのあと、その自分の無謀さに気づき、開催できないのではないかとという自責と、受けてしまったことへの深い後悔の念に落ち込んだ時期があります。幸いにして、さまざまな方の励ましとお力添えで、何とか前向きに走り始めることができたのが今年に入ってからです。励まして下さった方々に深く感謝いたします。走りはじめた当初、今回のシンポジウムに対して、次のような3つのことを実行委員長である自分への課題として設定いたしまし

* Ohshima, Masahiro
京都大学工学研究科化学工学専攻
京都市西京区京都大学桂（〒615-8510）
2004.11.25 受理

晴天に恵まれた桂キャンパスの時計台，講演風景，懇親会，ポスターセッション，関西成形加工

た．1) 関西の色を出すこと，2) 京都大学の色を出すこと，3) 新しいテーマと人を発掘すること．1) は，6年前の大阪でのシンポジアでの経験を通して，関西の色をだすのは，関西の中小企業でプラスチック成形加工をやっている方々にシンポジアに加わっていただく以外にないというものでした．その願望は，関西支部の方々，西日本プラスチック製品工業協会およびジュニアプレジデント会の方々，京都市産業技術研究所のご理解とご協力に関西セッションとして，先にも述べましたように，結実いたしました．

2) の課題の内容は，桂キャンパスへの交通の便の悪さや丘陵地で上り下りが大変だなどというフィジカルな特徴を知ってもらうことではなく，成形加工学会の中で，サイエンティフィックな研究がどのように受け取られるのか，その受け取られ方を私自身が知りたかったことにあります．また，海外の学会で学会の前や後に開かれるワークショップやチュートリアル講座を模索してみたかったこともあります．それらの目的と同時に，本学会の存在を，それらのアカデミアの先生にアピールしたかったこともありました．これの具現化が，成形加工のサイエンスというセッションでした．

3) は，成形加工学会で活躍できる新しい人を発掘することを主旨としたものでした．今まで当学会のシンポジアや年次大会の運営は，そのほとんどが，東京近傍の若手のごく限られた方々のご尽力で行われていたように思います．ある意味で，頼りにしすぎているように感じます．今回は，そのような実務ができる方々を，新たに発掘することができればという思いのものでした．組織は何よりも人だと思います．人の層が厚くなればなるほどよいと思った次第です．ただ，そうはいっても新人だけでは，勝手がわからな

いので上手くいくはずがありません．そこでベテランの方々にバックアップにはいていただくという体制をとらせていただきました．その結果，幹事が4名，実行委員が50名以上という前代未聞の大実行委員会となってしまいました．実行委員会が大きすぎるというご批判をいただきましたが，課題は，十分果たされたと思われます．また，3) の設定の中には，昔，私が発泡成形を唯一の道具に本学会に参加させていただいていたとき，当時の理事の方々や実行委員の方々が，新参者で，垂流の私にセッションを任せてくださるなど活躍の場を与えてくださったことを思い出し，そのお返しを学会にしたかった意味合いがありました．その思いで，各セッションのオーガナイザーをお願いいたしました．今回のセッションが，今後，若手の方が中心になり，上手く本学会の中で発展していけばうれしい限りです．

上述いたしましたような私の大願は今回うまく成就したものと信じております．しかし，それらの大願成就やシンポジア全体の成功は，すべて人と人とのつながりで実現できたものと思います．決してひとりやふたりの人間ではこのようなシンポジアは開催できませんでした．志を同じくする人の集まり熱意が大切であることは痛感いたしました．本シンポジアの企画，準備，運営にあたり，献身的にかつ情熱を持ってご尽力くださいました幹事，実行委員，セッションオーガナイザーの皆様をはじめ，ご支援いただきましたすべての皆様に心より深く御礼申し上げます．

何分にも建設途中のキャンパスであり，手狭でご不便をお掛けしたことを深くお詫びいたします．しかし，皆様にとって，心に残るシンポジアのひとつになったことを信じております．